

令和7年度 第4回 羽曳野市地域福祉推進委員会・羽曳野市地域福祉活動計画推進委員会
(議事要旨)

日程

令和8年2月19日(木) 14時00分～15時25分

会場

羽曳野市役所 別館3階 会議室

出席委員

新崎委員、吉田委員、酒井委員、通堂委員、阪本委員、齋藤委員、木村委員、上間委員、
佐藤委員、村本委員、猪砂委員、麻野委員、中野委員、松下委員、奥野委員、林委員、
杉本委員、南里委員、宮井委員、秋田委員、小池委員、松岡委員、浦田委員、

次第

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. パブリックコメントの募集結果について
4. 第5期羽曳野市地域福祉計画・第5期羽曳野市地域福祉活動計画(案)について
5. 答申(案)について
6. 閉会

議事要録

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. パブリックコメントの募集結果について

パブリックコメント募集結果について事務局（羽曳野市）より説明

4. 第5期羽曳野市地域福祉計画・第5期羽曳野市地域福祉活動計画（案）について

- ・第5期羽曳野市地域福祉計画・第5期羽曳野市地域福祉活動計画の案について事務局（羽曳野市・社会福祉協議会）より説明
- ・委員より埴生南校区の取組について説明
- ・委員より高鷲南校区の取組について説明
- ・委員より羽曳が丘校区の取組について説明

（委員長）

- ・地域福祉計画は行政計画として制度の反映、例えば孤独・孤立対策推進法や、成年後見などの制度が変わる中で、羽曳野の地域福祉を網羅する計画であり、地域福祉活動計画は地域それぞれの校区の思いをそれぞれ話し合いながら作っていく。14校区すべてでアクションプランを作っていた、まさに地域福祉活動計画アクションプランになったのではないかと思う。それぞれ地域の特性があり、みんな違ってみんないいものになっていると思う。

（委員）

- ・今回、児童委員・児童委員も188名必要なところ、154名ほどとなり、34名近くが欠員。また、なっていた方についても、本来なら50歳代、60歳代の若い方がいるといいが、70歳代や、区長と兼任で手を挙げていただいて、地域のためにとなっていた方がいる。今後とも地域では民生委員・児童委員の欠員の助けをしていただけるとありがたい。
- ・西浦東校区ですが、小学校でもこどもの人数が減っており、朝の見守りもありがたいが、もっと学校の中に入ってほしいということで、草むしりや花植えを地域でお手伝いいただけると、もっとこどもが地域の方と話ができるという話があり、それを校区福祉委員会で取り上げたところ、羽曳野市の地域包括から障害の支援の方も含めた取組としてやってもらえないか、それが重層の一つになってやっていけるのではということで、少しお披露目させていただいた。

（委員長）

- ・去年の12月に民生委員・児童委員の改選があり、大阪府内でも他県でもそうだが、民生委員・児童委員の担い手不足として、地域の方からの相談を受けた時にどこにつないでいいかわからない、受けた相談をつなぐところがないという課題があり、疲労感や負担感が増えている

という課題がある。

- ・重層的支援体制整備事業の中で多機関協働や包括的支援体制整備で、民生委員・児童委員にも寄り添える体制づくりになってきているのではないかと思う。小学生と高齢者が交流することで、地域共生社会における支え手と支えられる側が分かれるのではなく、双方向の学びに取り組んでいただけという話もあった。先ほどの発表でもPTAとの交流という話があり、多世代交流というところも一つのポイントかと思う。

(委員)

- ・民生委員・児童委員の活動を知ってもらうため、大阪府の取組で小学5、6年生向けのパンフをつくったり、インターンに取り組んだりなど、新しい取り組みもある。

(委員)

- ・地域の担い手である民生委員・児童委員などの間で高齢化、担い手不足という問題が発生しているが、少子高齢化が進む中で、昨年、戦後団塊の世代で生まれた方の全員が昨年75歳以上になり、後期医療保険の対象になった。市の去年の人口が10万3千人、そのうち後期高齢者が2万7千人になっている。2035年には人口が約9万人、そのうち後期高齢者が約3万人という予測も出されている。長寿化ということが見込まれている状況で、民生委員・児童委員の75歳という年齢も撤廃するほうがいいという議論もある。長寿化に伴っていろんな局面で高齢者を見守る活動に地域で取り組んでいただきたいと思うが、高齢者が高齢者を見守るという状況が現実。それぞれ取り組んでいる中で、高齢化というより後期高齢化となっており、平均寿命も延びている中で取組が非常に重要となっている。高齢者の見守り等の活動に、より一層取り組んでいただきたい。

(委員)

- ・高齢化ということがどこでも言われており、年を取ったからやめましょうといったことがたくさん出ている。どうしたらそういう方々を一人でも無くすることができるか、という話を持って行ってもらえるといいと思う。

(委員長)

- ・ボランティアには年齢制限がない。高齢でボランティアしていただいている方は活動が生きがいにつながるし、健康づくりにもつながってくると思う。年齢で活動を決めてしまうのではなく、できることを、委員のようにできる範囲でやっていただくのが、地域にとってもボランティア本人にもプラスになると思う。

(副委員長)

- ・これまで地域福祉活動計画の中にそれぞれの目標を入れていただくこと自体なかったもので、ありがたい。今後計画を実行していく立場になり、見直しをして評価をして、新たに計画を変えていけばよいと思う。5年間の途中でも十分変更可能だと思うので、まず計画して実行するということに移っていければと思う。行政にも支援や後押しを継続的にやっていただく、地域の我々が活動しやすいよう手を差し伸べていただくということをお願いしたい。

(副委員長)

- ・活動していただいている住民の皆さんや支援していただいている皆さんのおかげで進められている活動ですが、応援したいと思う人をどれだけ広げていけるかが、問われていることだと思う。計画を作ることが目標ではなく、これをどう生かしていけるかということを考えていると思う。14校区それぞれにカラーがあり、これだけそれぞれの地区の強みを出していただいた計画なので、今後活動を進めるとますますいろんな色が出てくると思う。14校区それぞれの特色を出し合っ、お互いに参考にしあう、見に来てと言う話が出てきて交流も広がっていくとよいと思う。

(委員長)

- ・計画を立てることが目標ではなく、ポイントは3つのゴール。1つは計画を立てること。次にプロセスゴールとして、計画を具現化するプロセスでの話し合いや意見を交流するという部分。またこの計画の他市との違いとして1層を小学校区にしているところはほとんどない。ほとんどが1層を市域、2層を中学校区、3層を小学校区としており、行政や専門職が決めたことを中学校区に落とし、それを小学校区で具現化するというものが多い。「ふれあいネット雅び」は、それを小学校区でやっていくということを20年くらい前から取り決め、それが素敵だと感じてかかわらせていただいていた。それが小学校区のアクションプランにもつながったということで、まさに「ふれあいネット雅び」が具現化していく大きなスタートにもつながってきたのかと思う。最後にリレーションシップゴール。いろんな機関が顔の見える関係を作っていく、学校が協力してくれるようになった、民生委員・児童委員がかかわっている、支援学校のこどもがかかわるようになっていくというように、計画を通していろんな方々がネットワークを作る。今プラットフォームづくりが注目されている。それぞれ集まって、立場からの話だけして解散するネットワークは形がい化しやすいと言われるが、プラットフォーム、想いや願いの違いを超えて、行政・専門職・地域それぞれの立場から忌憚のない話をしていきながら、実現できることを考えていこう、そんな5年間の計画を、地域福祉推進委員会で進捗状況を継続点検、継続改善していき、計画を5年後、よりブラッシュアップできたという話ができれば素敵だと思う。

5. 答申(案)について

委員長より答申案の読み上げと説明

(委員長)

- ・今読み上げた答申に異議がなければ、この答申案で市長に答申したいと思う。

【異議なしの声】

(羽曳野市保健福祉部長)

閉会の挨拶

6. 閉会